

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミⅡ	チーム名	レペゼン摂津本山
タイトル	ギリシャ危機の先に見える日本の危ない姿		
テーマ群	d) 国際経済		
メンバー	玉巻佐紀 奥野智也 脇本悠希 伊達翼 近藤駿 小溝弘文 福本達也 斉藤輝 田原望 原田彩		
研究計画内容	<p>新聞やニュースで連日のように取り上げられている欧州の経済危機から見た日本の財政赤字について研究します。</p> <p>財政赤字を偽りユーロに加盟した事と多すぎる公務員という問題を抱えるギリシャは、2009年10月に財政状況の粉飾決済が露見しました。その後もスペイン・ポルトガルなどユーロ加盟諸国 (PIGS) の財政不安も問題になり、欧州だけでなく、世界的な金融危機に発展するのではないかと懸念される中、EU はユーロ圏諸国の救済を目的とした欧州金融安定基金 (ESFS) を設立し、2010年5月1100億ユーロのギリシャ支援が決定しましたが、ギリシャの財政再建は進んでおらず、ヨーロッパの多くの銀行ギリシャに貸し込んでいるため、信用不安から2011年10月にはベルギーなどの金融大手デクシアが事実上破綻しました。</p> <p>このように欧州では財政赤字が大問題になっている中、今の日本の財政赤字は44兆円にのぼり、対GDP比でみる政府債務残高は、ギリシャが142%であるのに対し、日本は220%と諸外国に比べてとても高い水準であることがわかります。これは、公共事業関連費や社会保障関連費などの拡大によって、歳出が増加したにもかかわらず、歳入は減り続けていることが大きな要因であると考えられます。</p> <p>現在、日本は国債の多くを国民が消化しているため、ギリシャ以上の政府債務残高にもかかわらず、財政赤字問題はあまり表面化していません。しかし、ギリシャ問題は日本にとって対岸の火事ではありません。なぜなら、急速に進む少子高齢化によって、日本が金融危機に陥る可能性は高いと考えられているからです。</p> <p>そこで、日本がギリシャのような危機を回避するために何が必要なのかを考え詳しく分かりやすく解説していきます。</p>		